

## 2024 年度ゼミ (演習 3A/演習 3B) 要覧

担当者名	森 あおい
演習テーマ	多文化主義の視点から読み解くアメリカ
内容 と 卒業論文の 指導方針	大学4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆する。卒論執筆に際しては、文献研究を中心に進めていく。各自がそれぞれのテーマに従って、一次資料、二次資料に依拠しながら資料を読み解き、思考力や分析能力を高め、最終的には質の高い論文を完成できるように指導する。
メール・アドレス	aomori53@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	木 13:00-14:30 面談希望の場合は、前日までにメールしてください。
授業概要	異文化コミュニケーション、アメリカ文学、文化に関連して、各自興味があるテーマを選び、卒業論文を作成する。論文の内容を章ごとに発表し、ディスカッションを行う。担当教員や他のゼミ生との意見交換を通して得たコメントやアドバイスを元に原稿に修正を施し、よりよい論文に仕上げていく。
学習目標	卒業論文執筆にあたっては、オンラインでの検索を含め、文献検索の方法、ノート・テーキングの方法、アウトラインの作成方法、問題提起の仕方、論文の展開方法等、論文作成に必要なとされるノウハウを修得する。
授業計画	<p>演習 3A</p> <p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 卒論執筆に向けて</p> <p>第3回 資料の読み方について (スキミング、スキヤニング、クリティカル・リーディング)</p> <p>第4回 ノート・テーキング、キーワードの絞りこみについて</p> <p>第5回 図書館ガイダンス (キーワード検索)</p> <p>第6回 剽窃、注について 卒論テーマに関するプレゼンテーション、ディスカッション (1)</p> <p>第7回 第1章執筆要綱の説明、論文執筆に関しての復習 (段落構成、論文で使われる表現方法・文体、よみやすい文章の書き方、パンクチュエーション等について) 卒論テーマに関するプレゼンテーション、ディスカッション (2)</p> <p>第8回 引用について 卒論テーマに関するプレゼンテーション、ディスカッション (3)</p> <p>第9回 第1章執筆について</p> <p>第10回 問題提起の方法、要旨説明について</p> <p>第11回 論文の構成、アウトライン、論文の展開方法について</p> <p>第12回 第1章に関するプレゼンテーション、ディスカッション (1)</p> <p>第13回 第1章に関するプレゼンテーション、ディスカッション (2)</p> <p>第14回 第1章に関するプレゼンテーション、ディスカッション (3)</p> <p>第15回 ワークショップ、卒論第1章提出</p> <p>演習 3B</p> <p>第1回 ガイダンス、Chapter 2 提出</p> <p>第2回 プレゼンテーション、ディスカッション</p>

	<p>第3回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>第4回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>第5回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>第6回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>Chapter 3 提出、Introduction, Conclusion の書き方について</p> <p>第7回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>第8回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>Introduction, Conclusion 提出、Works Cited の書き方について</p> <p>第9回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>Works Cited 提出、表紙、目次の書き方について</p> <p>第10回 プレゼンテーション、ディスカッション</p> <p>表紙、目次提出、要旨、キーワードについて</p> <p>第11回 要旨、キーワード提出</p> <p>第12回 フォーマットの確認</p> <p>第13回 最終チェック</p> <p>第14回 総括</p> <p>第15回 卒論報告会</p>
予習	上記のスケジュールに従って、論文提出ができるように準備を進める。
復習	課題について、指摘された問題点を修正する。
授業に関する注意事項	授業には主体的かつ積極的に臨むことが求められる。課題は、必ず締め切りに間に合うように提出すること。プレゼンテーションを行う際は、レジюмеを準備すること。
教科書	各自で一次資料を準備すること。
参考書	<p>ジョゼフ・ジバルディ著、原田譲治訳・編、『MLA 英語論文の手引き 第6版』東京、北星堂書店、2005、</p> <p>他</p> <p>白井 利明、高橋 一郎、『よくわかる卒論の書き方』、ミネルヴァ、2013.</p> <p>花井 等、『論文の書き方マニュアル』、有斐閣.</p>
成績評価の基準	提出物 50%、プレゼンテーション 20%、授業への参加度 30%
関連 URL	
備考	